労働図書館新着情報

今月の図書紹介

①大竹文雄著『競争社会の歩き方』中央公論新社
（vii+235頁，新書判）

政策に行動経済学の成果を活かす動きは、海外ではすでに始まっている。本書は最新の行動経済学の知見などを紹介し、「競争」をキーワードに、様々なトピックスを取り上げる。例えば職探しにおける競争にはメリットがあるという。激しい競争に身を置けば、自らの強みを発見できる可能性が高まるからだ。競争は勝者と敗者を生み、厳しくつらい面もあるが、競争が繰り返される結果、自分が真に活躍できる場を見つけられる確率が上昇すると主張。不得意な分野で消耗戦を続けるのは、本人にとっても社会全体にとっても不利益でしかないと述べる。また、政府による女性活躍推進から社会保障給付の問題まで競争社会を生き抜くヒントを提示している。

②ダイアン・マルケイ著『ギグ・エコノミー』日経BP社
（278頁，四六判）

ギグ・エコノミーとは、従来の終身雇用のような働き方ではなく、インターネットなどを通じて「単発の仕事」（ギグ）を基盤とする新しい働き方。定職に就こうとは考えず、約3～5年で転職を繰り返すスタイルだ。収入が安定して増えるとは想定せず、仕事には柔軟性や自主性、働く目的や意義との一貫性などを重視し、これらがそろっていれば収入が減ってもかまわないと考える。また、現在の労働者は「ひとりの従業員にひとつの職務」という伝統的な就業モデルに不満を抱いているとし、ギグ・エコノミー化に伴って、キャリア構築やライフプランの考え方は様変わりすると予測。「自らの成功を定義する」などギグ・エコノミーの10の成功法則を提示する。

③八代尚宏著『働き方改革の経済学』日本評論社
（xvi+168頁，四六判）

アベノミクス成長戦略としての労働市場改革では、「同一労働同一賃金」による非正規と正規社員の格差改善、長時間労働の是正、高齢者や女性の就労促進を図ることが柱となっており、その方向性については評価する。ただし、少子高齢化が進み、労働力不足経済下という環境を踏まえると、政府の改革については、企業の「働き方改革」と結びつかなければ目的を充分に達成できないと指摘。同一労働同一賃金改革では、非正規社員よりもむしろ正社員の働き方の見直しが基本で、多様な形態の正社員の働き方を設けることで格差を是正できると述べる。残業依存の働き方に関しては、ホワイトカラーの専門職を対象とした「高度プロフェッショナル」制度の仕組みづくりに注目。

④久谷與四郎著『日本の労働運動100年　温故知新――いま原点に立つ』富士社会教育センター　（246頁，四六判）

友愛会が創設された大正元年から連合が結成された平成元年までの軌跡を、戦後労働運動の現場を自らの足と目で見てきた著者が解説する。友愛会から総同盟へのれい明期では、8時間労働制に道を開いたサボタージュ闘争や日本初のメーデーの実現など戦前の民主的労働運動に言及。一時、組合数1千、組合員数40万人だったが、昭和15年の戦時体制下で壊滅する。戦後は労組再建が相次ぎ、旧総同盟幹部も動き出し、昭和21年に総同盟は再生。組合数は約1,700、組合員数は85万5千人に。その後の2.1ゼネストの失敗、総評の結成、春闘の誕生、三井三池大争議などを経て、同盟が生まれ、労働戦線は統一に向かった。対立と挫折を乗り越えて平成元年に連合が誕生する。

（日本十進分類[NDC]順に掲載）

主な受け入れ図書

（2017年10―11月労働図書館受け入れ）

⑤山本紳也著『外国人と働いて結果を出す人の条件』幻冬舎メディアコンサルティング（204頁，新書判）
⑥齋藤和紀著『シンギュラリティ・ビジネス』幻冬舎（193頁，新書判）
⑦清水久三子著『「残業だらけ職場」の劇的改善術』PHP研究所（235頁，四六判）
⑧生産性改善会議編『時短術大全』KADOKAWA（319頁，四六判）
⑨遠藤源樹著『企業ができるがん治療と就労の両立支援実務ガイド』日本法令（293頁，A5判）
⑩福島創太著『ゆとり世代はなぜ転職をくり返すのか？』筑摩書房（270頁，新書判）
⑪野村浩子著『女性に伝えたい未来が変わる働き方』KADOKAWA（327頁，四六判）
⑫渡辺拓也著『飯場へ：暮らしと仕事を記録する』洛北出版（505頁＋図版1枚，四六判）
⑬中嶋聡著『うつ病休職』新潮社（191頁，新書判）
⑭OJTソリューションズ著『仕事の生産性が上がるトヨタの習慣』KADOKAWA（222頁，四六判）

労働図書館　http://www.jil.go.jp/lib/index.html

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書138,404冊、洋書44,325冊、和洋の製本雑誌25,759冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌（266種）、洋雑誌（142種）、紀要（507種）、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関（ILO）総会の議事録や経済協力開発機構（OECD）の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所 在 地：〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
開館時間：9：30 ～ 17：00
休 館 日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始（12月28日～1月4日）、その他
電話番号：03（5991）5032 ／ FAX：03（5991）5659
利用資格：どなたでもご自由にご利用できます

貸　　出：和書・洋書とも２週間、５冊までです
※身分証明書（運転免許証、健康保険証など）をお持ちください
レファレンス・サービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています